論旨
ポスト 2015 年の教育課題

シルビア・シュメルケス
イベロアメリカ大学　教育開発研究所長

EFA の目標は MDGs と同様、数量的な平均値についての目標であり、教育の内容には触れていない。教育の目標について異なる考え方がある中で、ここでは 2 つの主な問題、すなわち「公正な教育」と「教育内容」について取り上げたい。

a) 公正な教育の問題は「質の高い教育の提供」と定義される。具体的には、学習の成果を上げること、農村部の人々・先住民・非定住者・特別な支援が必要な人々への教育の提供など困難な課題にどう対処するか、公正な教育の目標を達成するために必要な財源、多文化の世界で教育の妥当性をどう確保するか、クラスの中で多様性を発見し対応することの重要性などの問題に取り組まなければならない。

b) 教育内容の問題に取り組むためには、知識・スキル・価値観のバランスを見直す必要がある。価値観の教育（市民権、異文化教育、環境意識など）を優先しなければならないことを指摘する。芸術教育は今より重視しなければならない。また、情報へのアクセスや情報発信、知識を学び発見するなど、高次の思考力を伸ばすことも、今後さらに重要となる。

ポスト2015年– 必要な改善点

シルビア・シュメルケス
イベロアメリカ大学　教育開発研究所長
2010年2月

目標を達成できるか

- メキシコにおける初等教育の普及について
  学習ではなく就学が目標になっている。
  MDG 6歳-11歳。問題なく目標達成。
- 2006年には純就学率は101%だった。
  - 学校の出席率　96.4%
  - 総就学率　109.8%
  - 効率性　91.8%
  - 4つの州で96%に達していない – チアパス州、ゲレーロ州、オアハカ州、ミチョアカン州。最初の3つの州は最も貧しい州。
  - 効率性88%の目標に達しない州がいくつかある。

ダカール= 質の良い教育。 この目標を達成するのは困難。

目標を達成できるか

初等教育が完全普及しているとはいえない。

- 6歳から14歳までの子どもたちのうち、最初から小学校に入学しなかった者と中途退学者を合わせて、1,617,710人が学校に通っていない（就学者数の11.4%）。
- 小学校の就学者数のうち、12歳から14歳が全体の6.49%を占める。
- 12歳から14歳の人口の14.5%は学校に通っていない。
- 学校に行っていない子どもたちが最も多い年齢は、12歳、13歳、14歳である。この年齢の子どもたちが、最も中途退学する可能性が高い。

表1
不登校児童・生徒の年齢別人口

年齢	人口	未就学者数	%
6 歳	2,235,729	218,455	9.77
7歳	2,235,275	110,667	4.95
8 歳	2,270,639	93,402	4.11
9 歳	2,222,794	82,670	3.72
10 歳	2,2862844	92,704	4.11
11 歳	2,087,237	89,790	4.30
12 歳	2,185,691	181,059	8.28
13 歳	2,104,224	291.598	13.86
14 歳	2,102,500	457,365	21.75
合計	19,700,930	1,617,710	8.21

出所: INEGI. 2006. II 2005年人口・住宅国勢調査. México: INEGI

目標を達成できるか

- 小学校の1年生に入学した子どもが6年生を修了する確率は、2005年の数字で、全体で0.74、男子は0.71、女子は0.77、先住民の子どもたちは0.54だった。
- 6歳から11歳の就学児童のうち59%しか自分の年齢に該当する学年に就学していない。
- 前期中等教育も義務教育であるが、12歳から14歳の生徒のうち、自分の年齢に該当する学年に就学しているのは46%である。

目標を達成できるか

どのような子どもたちが学校に行っていないかは明らかである。

- 中途退学者
- 国内の出稼ぎ労働者。35万人の子どもたちのうち、6%しか教育を受けていない。その60%は小学校の1年生と2年生である。
- 小規模村落が点在しているところに住んでいる子どもたち。人口が100人未満の村が13万8千ある。CONAFE（国立教育促進審議会）は11,000か所に対応。
- 農村部の先住民。ニーズに合った教育が行われていない。

目標を達成できるか

ダカール = 質のよい教育

この目標を達成するのは不可能

- 初等教育と中等教育の児童生徒の80%は、読解力と数学の習熟度がPISAの１と２のレベル。

6年生では、読解力では68.8%、数学では69.7%の子どもたちが基本的なレベル以下の習熟度。

先住民では、読解力では92%、数学では93.3%の子どもたちが、基本的なレベル以下の習熟度。

MDGの目標は達成するが、初等教育の完全普及と質の良い教育の提供はできない。

必要な改善点

公正な教育のビジョン

- 「公正」というのは、すべての人にとって同じという意味ではない。同じ目標も異なる目標もあわせて、それぞれの子どもに必要な目標が達成できること。
- 恵まれない子どもたちには、より多くの配慮が必要。つまりしばしば、より多くのリソースが必要。

メキシコでは財政の公正さがない。

異なる文化や異なる背景の子どもたちに対する多様な教育が必要。

これまでありがちだった均質化をめざす教育モデルでは、少数派の子どもたちは教育を達成できない。

9

必要な改善点

- 公正を達成するためには:
  - まず、すべての子どもたちが確実に等しいリソースを受けられるようにする。
    - 人的資源 – 訓練を受けた専門家である教員
    - 財源– 一人当たりのコスト×就学者数
    - 運営上のリソース – 最小限、機能するのに必要なリソース。例えば、学校に勤務する教員など。
    - 管理上のリソース –きちんと管理された学校を、すべての子どもたちのために確保。
  - また、困難な状況にある学校や子どもたちを、これまで以上に配慮し、より多くのリソースを提供する必要がある。
    - 貧困、異なった言語、異文化、異なった能力に合わせた優遇政策

10

必要な改善点

- 質のよい教育を提供するために（質も公正の問題である）
  - 様々な背景や文化における教育のニーズを配慮した、質に対する多様なビジョン―同じ教育目標だけなく異なる教育目標も。

    政治レベルと教室レベルにおいて。
  - それぞれの子どもの状況と可能性を考慮し、すべての子どもたちの学習を重視する（インクルーシブ教育）。
  - 校長や教員がより大きな権限を持つ。
  - 基礎的スキルとより高度なスキル、市民としての価値観、共生の価値観を、既定の内容よりも優先する。
  - すべての場合において、学校や教室がそれぞれの子どもたちを歓迎し、受け入れ、尊重し安心できる雰囲気を作り、社会的な交流を設定して、それぞれの子どもの自信を高めるような環境を提供する。

11

改善点

グローバルな目標があるとすれば :

- 公正の目標を明らかにしなければならない。
- 目標は就学率ではなく、学習の視点から立てるべき。
- 教員と学校を改革の中心にすえるべき。